

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目のつきやすい所に表示しており年度初めに自身の抱負も聞かせていただいている。一つの目標に全員同じ方向をむいて日々努力しています。	「家庭的な環境と地域住民との交流の下で日常生活上の世話、機能訓練を行うことにより利用者が有する能力に応じて自立した生活が営めるよう支援する」との理念を持ち、近年は、オムツはずしを目標に職員と共に実践に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の消防訓練にも参加、地域の祭りにも参加、施設の運営推進会議にも参加いただいています。	自治会に加入している。お祭りには、事業所の前庭を御神輿の休憩所に提供し利用者も一緒にお迎えしている。子供会のハロウィンには、利用者がお菓子をもち子供たちを迎えたり、小学校の地域探検学習の一環として小学生の訪問を受け入れている。職員は、地域の清掃にも参加している。今年は、小学校を借りての運動会が出来ればと企画している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	AEDの設置施設として認識頂き、必要な時にはお使いいただけるよう、また介護保険や高齢者の方の相談は、いつでも可、運営推進会議でもお伝えしています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の入居状況や、最近の取り組み、行事等、運営推進の会議に必ず報告している。	運営推進会議は地域の総代、副総代、老人会、ボランティア、民生委員、行政、家族代表等の参加を得て2ヶ月に1度開催している。事業所の近況報告や意見交換、近所の苦情なども聞かせてもらっている。	運営推進会議の議題づくりに苦勞されている。外部評価受け入れと結果の報告だけに留まらず、各項目の内容や消防訓練について取り上げたり、苦勞点の相談や、協力依頼する等、話し合いの中で更なる活用を期待する。また、職員、家族全員に周知し意見を生かすことを期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のご案内をしており出席していただいております。行政からの助言も頂いています。	運営推進会議の案内は毎回出している。市の介護保険課と地域包括支援センターの職員が、毎回ではないが出席している。保護課とも連絡を取り合っている。市の方針を聞いて参考にしたり、助言をいただいている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は勿論、スピーチロック等も正しく理解しています。	玄関は施錠されていない。田んぼのことが気掛かりな帰宅願望のある利用者が、警察のお世話になったこともあるが地域の協力も得て職員で見守っている。県社協の研修会にも参加し意識を高めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や、ミーティングで話し合い、防止の徹底に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所の方には、成年後見制度や、権利擁護を使っておられる方がおられ理解している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前には必ず面接を行い、不安な事や、疑問点をお尋ねしている。契約時には、項目ごとに読み上げ、説明し、ご理解いただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	些細な事でもお話頂けるようお声掛けし、職員全員が周知出来るよう連絡ノートに記載し、目を通した人は署名するようにしている。	家族の意見や要望は、面会時に立ち話でも聞くようにしている。利用者のありのままの様子を見て頂く参観日を開催していたが、今年は、夏祭りの日に統一し催し後、家族会を開き多くの家族から意見や要望を出してもらおうと考えている。	企画された「参観日」も出席者が少なかった。多くの家族が出席される日に家族会の開催予定である。取り組みの成功を期待する。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営状況等も話しており、職員の感じていることは聞かしてもらい取り組みたいことは、協力しながら実行してもらっている。オムツ外しも職員からの提案で実際オムツ外しが成功しました。	月に1度ミーティングを開き、職員の意見を聴いている。管理者と職員は、日頃から話し合い問題を解決している。職員は、意見を言いやすいと感じており、オムツはずしや季節の外出時期や場所についても職員の意見を取り入れ進めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	得て、不得手、的代適所を見極め、仕事にやりがいや生きがいを感じてもらえるよう努力している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の勉強会や研修に参加できるよう配慮している。勤務の調整や、研修の報告もして頂き、互いに共有することで向上できるよう努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所の運動会や夏祭り等に参加させていただき、いい勉強や体験をさせてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ず面接をします。その時にはご本人の意向を聞かせていただき、また、入所後はタイムテーブルを取り少しの変化や言動を見逃すことの無いように記録し、ご本人の気持ちに添うようにしています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、家族様とじっくりお話をさせていただき、ご要望にお応え出来る様努力し、信頼関係を築いています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どんな時に笑顔があり、どのような言葉でどんな反応があったか小さな変化も見落とすことの無いように、施設内だけでなく社会資源もうまく利用しています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	私たちは一緒に生活している、家族という立場で接しています。一つ屋根の下で暮らす、親子、兄弟姉妹です。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様を支えるのは決して私たちではなく、ご家族様のお力を借り、共に支えるという共通の目的と、ご本人と家族様の絆を大切にさせていただく事を一番と考えています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人、ご近所、ご本人の取り巻く人間関係を大切にしてお見えいただいたとき、失礼の無いように、配慮しています。	友人や以前住んでいた近所の方が来訪されることがある。入居を知られたくない家族や、遠方の郷里への帰郷願望の強い利用者への対応に苦慮することもあるが配慮しながら支援に努めている。利用者が希望する遠距離への外出は、家族にお願いし実現に向け支援をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事、レク、くもん学習療法時それぞれ関係に配慮し、座っていただく場所などにも考慮しています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移って行かれた後も、どのようにお過ごしされているか機会があればお尋ねしたり、家族様にお目にかかった時には気軽にお声掛けしたり、また相談にも遠慮なく仰っていただけるよう、こちらの気持ちもお伝えしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	くもん学習療法時や、ゆっくりお話しできる時など、案外本音をポツリとこぼされることが多いので、特に注意をはらって聞き逃すことの無いよう努めている。職員全員で検討したり実行出来る様配慮している。	公文学習療法時や日常の会話から利用者の思いの把握に努めている。特に公文学習時は、1対1での対応なので読み書きをしながら教材の言葉をヒントに話を進め思いの糸口を聴くことが出来る。利用者の意向は職員で検討し実現できるよう努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴、生活リズムを大切に、持てる力を伸ばしていける様支援している。これまでのサービス利用の把握により、よい一層その方の生活歴を理解できる。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調や、ADL、その方の持てる力を十分に発揮していただけるよう支援し、楽しく過ごしていただけるよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	くもんの学習療法で、読み、書き、計算、回想法、を通して感じたこと、初耳、仕草等、対応した職員で月に1回検討会を行い、職員全体で行うミーティングでの情報も加えてケアプランに落とし込んでいます。	月に1度、ケースカンファレンスを行っている。公文の月次検討会と合わせてケアマネージャーや公文学習療法士も入り利用者の変化に即したプランの見直しを検討している。	次月検討記録、回想法録、申し送りノート等に分散している介護計画のための情報を一本化し、継続的にアセスメントとモニタリングを充実されることが望まれる。日頃の気づきや実践をモニタリングシートに書き込み笑顔が見えるプラン作りに活かす工夫を期待する。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングでは、1か月を振り返り、その情報をもとにプランの見直しをしていきます。くもんの気づきも情報として加えその人に会った、そして何が必要か話し合っってプランに生かせるようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変、その日の天気、体調等に合わせて散歩や花見、ドライブ、外気浴など、またお買いものに同行していただくときもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのお地藏さん、神社、お散歩がてらお参りに行きます。ご近所の方々との挨拶、地域のお祭りなどにも参加させていただき地域住民の一人として暮らしていただいています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に今まで通り受診される場合は、家族さんに同行していただいています。それ以外の緊急時は施設で対応し家族さんにも同行願うようにしています。	月2回利用者全員、内科と歯科のかかりつけ医の訪問を受けている。認知症については、利用者の状態により随時職員が付き添い精神科に通院している。入居前からの主治医を受診するときは、家族に通院介助をお願いしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病気、けが、バイタルの異変、入浴時のボディチェックなど、看護師の力を借り看護と介護の両面で支えています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は常日頃の様子をサマリー等情報提供し、退院時はドクター、看護師、療法士の方々とのカンファレンスをし退院時に向け環境を整える。ゼリー食、車椅子、ミキサー食、糖尿食などの対応に備える。病院側からアドバイスを頂く。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りにむけ、家族さんと何度も話を重ね、慎重に対応しております。訪看さん、施設の看護師、職員、ドクター、訪問入浴、お力をお借りしながら、ご本人様に失礼の無いように心配りをしながら対応しています。	利用者と家族のニーズの高まりと必要性を受けて看取りを実施している。家族と話し合いを重ねかかりつけ医、病院、訪問看護の協力を得て昨年は2人看取った。今後も希望があれば支援していく体制で非常勤の看護師を採用した。	事業所の看取りの指針を作成し利用開始時に説明し希望を聞く体制作りが望まれる。方針を基に重度化に入ったときは、家族や医師・看護師・職員等と話し合いを重ね終末ケアに臨み、看取り後も家族や職員のグリーフケアも含めた一連の取り組みが望まれる。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命、消火訓練、避難訓練を行い、万が一の時には地域の松塚自主防災にも連絡出来るようになっている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	松塚自主防災会、松塚自治会の役員の方々に連絡をするようになっている。施設の職員も定期的に訓練を行っている。	昨年は、消火訓練と消防署での研修に参加した。自治会の消防訓練にも職員が参加している。地域の総代からは災害時の避難誘導の協力の申し出を受けている。	利用者が参加しての避難訓練は実施したことがない。条件が整えば、利用者も参加しての避難誘導や、夜間時想定訓練も計画されることを期待する。また、災害時の避難場所や連絡方法なども家族と共有されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一度しかない人生、二人といないその人、最後までその人として生きていただきたいと願っています。人格を損なうことの無いよう言葉づかいには特に注意を払っています。	職員は、家族としての気持ちで接するなか言葉使いには特に気を配っている。その人らしく過ごしてもらう為にその人に合った楽しみを見つけるようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外え行きたいな・・・、お造りを食べたいな・・・、等言われたことですぐ出来ること、お散歩、車でお出かけ等も実行しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクの参加や不参加の意思決定、遅くまで寝たい方や早く寝たい方、その人の生活リズムを大切に、希望に添うようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は、ご自身で選べる方はその方を選んでいただいている。思い出したように紅をさされる方もおられ、「きれいですよ」、「お似合いですね。」声掛けをしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮をむいたり、切ってもらったり、食卓を拭いていただいたり、食事の形態も、嚥下、咀嚼、その方に合わせて提供させていただいています。施設内での調理で、において食材を当ててみたり、何を作っているか会話が弾みます。	食事は近所からもらった野菜や管理者が育てた野菜もメニューに上り1階台所で手作りされている。利用者は、下ごしらえや、片づけなど出来るを手伝っている。今年は、紫蘇ジュース、梅干しやラッキョウ漬けの下ごしらえをして季節を楽しんだ。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お身体の状態、病気等、考慮したうえで分量を量ったり、食事の形態を考えたり、水分、食事量も一目でわかるように日報に記載している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で出来る方、できない方、義歯の方、歯ブラシ以外にもガーゼを使用される方等、その方にあったケアをしている。肺炎を無くすためにも口腔ケアには特に力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ外しを目標に職員一同頑張っています。まづ初めに、布パンツにはき替えていただき、気持ちの良さを感じていただけるよう取り組んでいます。うまく外れた方もいらっしゃいます。	生活の中の快いを増やすことを目標に、オムツはずしを実践している。排泄パターンを把握し昼間布パンツで過ごせるよう一進一退を繰り返しながらも職員全員で粘り強く支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝自家製のヨーグルトにリンゴを入れたものをお食べています。繊維の多い食材やお野菜もたくさんお食べ頂けるよう調理にも配慮し、日常生活では、移乗、立位、その方のADLにあわせ手洗い、トイレ、ご自身で出来ることは、リハビリと運動を兼ねて頑張っていたいでいます。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	汗をかいたり、失禁等の時にも、お風呂の時間帯でなくてもシャワーを使っていたりします。薬草、菖蒲等も浴槽に浮かべ楽しんでいただいています。	基本的には、週2回午後に入浴している。1階2階で合わせて週4回利用することも可能である。利用者の状態によりその都度シャワー浴、足浴を利用する人もいる。希望により同性介助にも応じている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後の休息や足の浮腫の状態等を見極め少し休んで頂いたり、足を上げたり、足浴をして頂いたり、気持ちよく眠れるように行っています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴や今のお身体の様子、また服薬に関しては副作用や容量、用法も理解し、確認出来る様看護師による指導や職員間の情報共有出来る様にミーティングや勉強会でも取り上げ話し合っています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯ものを干したり、乾いたものをたたんだりテーブルを拭いたり、ご自分のお部屋の拭き掃除など出来ることを職員と共に楽しみながらして頂いています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日のお天気に合わせてお出かけしたり、少し遠くまで行ったりと、気候のよい時は特にお出かけるようにしています。受診で外へ出かけた時の帰りはスーパーの中を散策しながらかえります。	ほぼ毎日、午前中に近くのお地藏さんや神社まで散歩し、季節には、みんなで曾我川の桜、馬見公園のチューリップ、バラや菖蒲も見に出かけた。また、通院先が、ショッピングセンターの6階にあるので診察後は、1階までウインドショッピングしながら歩き外出を楽しむ工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族さんとご一緒にお買い物に出かけられます。職員と一緒に買い物をするときは、ご自身で支払して頂きますが当方で立て替えております。所持金は全員の方お持ちではないです。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お電話はご自身でされる方がおられますが、お手紙をお書きになる方はおられません。しかし年賀状は各自出したい方宛てにお書き頂いています。はがきやお手紙を頂かれる方もいらっしゃいます。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関はいつも開放され、閉鎖的な感じの無いように配慮しています。光の調節や季節を感じてもらえるよう、こまめにお花も活け替えております。	カウンターキッチンから続く食堂には、大きなテーブルが置かれ食事、作業、寛ぎの場にもなっている。玄関は、解放され利用者にも人気者のパグ犬が寝そべっている。日よけのよしず簾やゴーヤと朝顔のグリーンカーテンは地域に溶け込んでいる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少し離れたところにも椅子が有ったり、共に話せるソファが有ったり、好きなように過ごしていただけるようにしています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋は、家族さんとご本人さんとでセッティングされます。使い慣れている物や見慣れたものをお持ちいただけるようお願いをしております。	居室には、自宅で使い慣れた道具を持ってきてもらうよう勤めている。利用者の状態によりすっきりした居室もあるが、壁に誕生会の写真を飾るなど居場所作りをしている。布団、シーツは全てリースを利用し汚れても気兼ねなく清潔に過ごしてもらうよう工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることはお手伝い願ひ、喜んで頂けることはご参加いただき、その方の持てる力を充分ハッキリ出来る様取り組んでいます。		